

令和3年度 連携・協力事業の実施状況について

教育課題研究専門部会

【プロジェクト名】教師力・学校力向上に資する実践研究

1 プロジェクトの目的・概要

佐賀県教育センターの研究の質の向上を図るとともに、教育センターの研究成果を有効に活用して、佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成の充実を図ることを目的として、連携・協力事業「教師力・学校力向上に資する実践研究」に取り組む。本プロジェクトを通して、佐賀県の教師力、学校力の向上に資することとする。取組としては、教育センター研究調査事業で取り組んでいるプロジェクト研究等に対して、佐賀大学教育学部教員による専門的な見地からの助言を受けるとともに、佐賀大学教員養成課程の講義等での教育センター研究成果の有効な活用を図る。

2 令和3年度の実施状況

(1) 教育センターが令和3年度に取り組んだ研究と連携した佐賀大学教員

教育センターの研究	研究担当所員	連携する佐賀大学教員
小学校算数科教育	光吉智宏 新真一	大学院学校教育学研究科 准教授 米田重和

(2) 連携の進め方（図参照）

月	研究の段階	連携方法・内容		
		教育センター	【教師力・学校力向上に資する実践研究】	佐賀大学
4月	問題提起・課題	研究要項作成	訪問・今後の日程調整等	教育センター 研究成果の有 効な活用（講 義等）
5月	設定する		研究の方向性の説明	
6月	方向性を策定する	研究計画策定	研究の方向性についての助言	
7月	コンテンツ作成	コンテンツ作成	コンテンツの内容についての説明	
8月	コンテンツ作成	コンテンツ配信	コンテンツの内容についての助言	
9月	コンテンツ作成	授業実践	Web原稿等の提示	
10月	コンテンツ作成	コンテンツ配信	まとめや次研究への助言	
11月	研究のまとめ	授業実践		
12月	研究のまとめ	コンテンツ配信		
1月	研究のまとめ	Web等の作成		
2月	成果と課題を分	次研究に向けた調		
3月	析する	査・分析		

図 教育センターの研究に関する佐賀大学との連携計画

(実施総数)

- ア メールまたは電話による報告，連絡，相談を行う。(R2:16件⇒R3:5件)
- イ 教育センターが実施する研究委員会に佐賀大学教員が参加する。(R2:3回⇒R3:0回)
- ウ 所員が佐賀大学を訪問し，助言を受ける。(R2:2回⇒R3:0回)
- エ 連携する佐賀大学教員から資料等の提供を受ける。(R2:6回⇒R3:0回)
- オ 連携する佐賀大学教員が教育センター研修講座の講師を務める。(R2:2回⇒R3:0回)
- カ 教育センター所員が佐賀大学の授業で講話を行う。(R2:0回⇒R3:0回)

(成果)

- 佐賀大学教員にメールまたは電話で相談した際，教育センターの研究について，国の指針や学習指導要領の趣旨を踏まえた助言を頂くことができた。また，学習状況調査との関連，授業改善につながる具体的な助言や，理論的，専門的な助言を得たことで研究の方向性が明確になり，研究の見通しをもつことができたとともに，研究の質が向上した。また，助言を受ける機会が，教育センター研究担当所員にとって，有用な研修の場となった。

(課題)

- 今年度は，プロジェクト研究や特命研究に該当する教科の減少に伴い，連携の機会も減少した。また，今年度も昨年度同様，新型コロナウイルス感染症拡大の影響で，研究委員会の開催やコンテンツ発信のスケジュールについても変更が必要になり，十分な連携を図ることが困難だった。次年度についても，状況に応じて柔軟な対応を検討していきたい。

3 今後の予定等

- 今年度も効果的な連携を図ることができたが，今後は，オンラインでの連携を取り入れるなど，連携の方法についても柔軟に検討したい。今後も，佐賀大学教員の専門的な見地から頂く助言をコンテンツ作成に反映させ，発信するコンテンツを日々の指導改善に効果的に生かしてもらえよう，研究の質の向上に努めていきたい。来年度も是非，本連携事業を継続してほしいと考えている。